

## 224. エビまこも(つばた巻®)

・・・前回からの続き。「お米と違って、毎年植付するのではなく（多年草のイメージ）ある温度に達すると自然に分けつし、自然に伸びるものである・・・」の要旨。つまり、収穫時期・収穫量は、露地栽培であるがゆえに調整困難であるとのこと。また、太さ（量）は、肥料より草取りが重要であって、一括して刈れる専用の草刈り機があるでもなく、



人海戦術しか手段はないが、人手不足の折、思うように回数がこなせないのが現状であるともおっしゃっていた。「つばた巻®の量産化」にあたり、生産者に無理難題を押し付けるのは、酷であると気付いた。もし、理想の「つばた巻®の量産化」を目指すのなら、原材料の生産から取り組まなければならないとも考えさせられた。現時点でできることは、その現状の生産量に合わせた形において、最善策を考えることである。

今回の「224. エビまこも」も前回の「223. カニまこも」も数年に亘り、改善を繰り返し、現時点では「これ以上やりようがない」ところまで味に関しては、高めてきたつもりではあるものの「真菰筍の生産」までには考えが至らなかったことは、残念の極みである。そんな中にあっても、なんとか最善策を捻り出し、「量産化」を目指したい。